

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1771500277		
法人名	株式会社 ウェル		
事業所名	グループホーム宝達の郷 (もみじユニット)		
所在地	石川県羽咋郡宝達志水町今浜148番1		
自己評価作成日	令和5年1月24日	評価結果市町村受理日	令和5年4月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・「自由に・ゆったり・ありのままに」生活を送っていただきます
 ・一人ひとりの「その人らしさ」を尊重します
 ・「第二の我が家(セカンドベスト)」を目指します
 という理念を活かし、ご縁のあった利用者さんに幸せな時間を提供できるように日々努力しています。
 食事前には全員で体操や唄を歌い、お花見や夏祭り、バーベキュー等色々な年間行事を通して、楽しいのびのびと生活していただいております。
 また、もみじユニットがひとつのチームであることや報連相を大切に日々業務を行っています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・理念「自由に・ゆったり・ありのままの生活、その人らしさの尊重、ホームが第二の我が家(要約)」にホームが目指すべき目標を示し、利用者個々の症状や能力に応じながら、理念の具現化具体化に向け日々臨んでいる。
 ・コロナ禍で厳しい制限が続く中、感染対策を講じた家族・知人との面会や個別外出、家族にはスナップ写真送付でご安心頂き、本人ペースの食事時間や入浴利用、土間打ち中庭での屋外食事に手作りの幕内弁当や寿司定食、全職員が自前の一品を持ち寄るお節など、調理専門職員の美味しき優先料理もより向上させ、きれいな古着を大量入手し選んで頂く等ホーム内行事も充実させるなど、コロナ禍を忘れさせるサービスに取り組んでいる。
 ・介護計画は「その人らしさ」重視の立案に向け、利用者にとって必要な支援を、本人・家族はもとより職員の誰もが具体的に何をすればよいかを端的に示す表現にして、ケア方針の鮮明化と向上につながるよう取り組んでいる。
 ・昨年度より、タブレット入力によるバイタル計測や排泄管理をし受診や家族説明時にグラフ化や映像提供を可能とするIT化、ペーパーレス化に着手しており、今年度は有給休暇取得を促進させ、また職員グループラインを作り情報共有と自由な話し合い環境整備に着手しているなど、より働きやすい職場環境となるよう取り組んでいる。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人バリアフリー総合研究所		
所在地	石川県白山市成町712番地3		
訪問調査日	令和5年3月14日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~59で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
60	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	67	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
61	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,42)	68	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
62	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:42)	69	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
63	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:40,41)	70	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
64	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:53)	71	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
65	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	72	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
66	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念をユニット会議開始前に全員で唱和するとともに、日々事あるごとに理念を念頭におきながら利用者様と関わる努力をしている。	理念「自由に・ゆったり・ありのままの生活、その人らしさの尊重、ここが第二の我が家(要約)」に、ホームが目指す目標を示し、コロナ禍であっても、むしろコロナ禍前以上のサービスの充実化を目指し、利用者が望む暮らしぶりになるよう症状に沿った支援をし、会議での理念唱和や日々関わりの中で都度省みて、理念の具現化・具体化に向け取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナに感染しクラスターが発生したことで、より一層地域との関わりが難しい状況となった。そのような中で地域の女性の会からタオル、手をつなごう会からシクラメンをいただき感謝している。	今年度も初詣や左義長、敬老会、文化祭等への参加、獅子舞に来てもらえる祭り、近隣保育園からの運動会やクリスマス会のお誘い、ホーム横のグラウンドでのよさこいソーラン大会観覧等々、全て中止の中、町の福祉活動団体からタオルや花を頂いたり、自治体主催の認知症フォーラムに後援として参加協力する交流はできている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍で、今年度も外部の方々と交流する機会を持つことができず残念に思っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの影響により面会禁止にしているため書面での事業報告を運営推進会議としている。	会議は隔月開催で、家族代表、町社協会長でもある区長、自治体・包括職員の構成で、近隣同法人事業所と時間差で開催だが、ここ数年はコロナ禍のため入居状況やホーム活動内容、感染対策等の報告書を自治体と区長に送付する書面開催に代替しており、その書面は玄関に常置して公開している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の開催中止の中、感染症対策の助成の相談や介護保険更新申請等で月に数回市町村担当者と顔を合わせる機会をもうけている。	自治体担当課には運営推進会議の書面報告をはじめ、毎月の入退去報告や介護認定更新、申請代行等々制度・法令順守に努め、感染防止策の指示や情報等を頂き、マスクや手袋等の供給、助成金も受け、ホームの感染対策や適正運営につなげている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内はいつでも自由に出入りできる環境を整え、利用者様に尊厳を持った対応ができているかユニット会議等で話し合っている。	身体拘束の正しい理解は、これまで身体拘束等適正化委員会や研修・勉強会、ユニット会議等を通じて省みる機会を設けており、また今年度は、職員が毎日目にするユニット用のタブレットの連絡項目に、協議結果や方針を記載することで、利用者への声かけをはじめ、言葉による拘束への改善が見られており、今後も職員それぞれの関わり方を尊重しつつも、日々のケアが利用者ファーストとなるよう取り組む姿勢である。日中の玄関施錠もしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	ユニット会議等で話し合う機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	前例がないこともあり、個々で理解出来ている職員もいるが、全ての職員の理解は十分ではない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	これまでの暮らしの中で行ってきた事、大事にしていた事等を聞き取りスタッフ全員が周知し日々のケアに活かしている。ご家族にも様子が分かるよう写真の送付は継続しておりご家族からも好評の声が寄せられている。	家族から入居前にされていた事をお聴きしたり、利用者に代わり家族に思いをお伝えしたことがあったり、個々の事情に応じた支援に取り組んでおり、代表者と担当職員が送付しているスナップ写真も好評で、コロナ禍の正月は年賀状にも本人写真を載せてご安心頂いている。頻繁に訪問頂く地元家族も多く、面会はマスク着用・検温・手指消毒のもと、玄関先で2m空けてお話し頂いているが、感染状況次第ではあきらめて頂かざるを得ない期間もあった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のユニット会議において随時意見を聞く以外にも日頃より風通しを良くし意見交換が行えるよう配慮している。	毎月のユニット会議は、代表者、管理者、元自治体職員に休日職員も含めた全職員が参加し、全利用者の現状把握や行事企画等を検討・協議し、代表者がいることで即決性もあり、職員からの設備補充や処遇改善、サービス向上提案等が反映される機会になっている。昨年度より勤務体制や労働時間調整、利用者の生活記録や三則表のIT化・ペーパーレス化に着手し働きやすい環境や業務効率化に取り組んでおり、今年度は有給休暇の積極的活用や、あえて代表者抜きの職員グループラインを作り、情報共有と自由な話し合いの環境整備に着手している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの健康状態や生活環境に応じシフトや労働時間の調整等を行い誰もが働ける環境作りに務めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍でも初任者研修の受講がなんとかできたことは良かった。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	オンライン等で常に新しい情報を取り入れられるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談することでご本人のご要望を聞きだし個々の思いに合わせられるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学时よりご家族のご要望を把握し不安を取り除くよう努めている。またご家族の事情に応じ対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の望む生活を見極め病院や担当ケアマネ等と密に連絡を取り合い連携を図っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や洗濯もの干しや片付け、食事の下膳や洗い物等、利用者が積極的に行っている。一方的に介助する事なくコミュニケーションを取りながら出来る事が増えるよう関わり、出来ない事は受け入れている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームの様子を感じてもらうためにスナップ写真を送付している。気になる事があればこまめに連絡しコロナ禍でもご家族の健康状態を確認した上で面会をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の要望があれば行きつけの店での買い物や、自宅の柿とり、墓参り等スタッフが同行している。	そもそも来訪者が多く、入居前からの人や場所との関係や習慣、家族としての務めなど、利用者の思いや事情に応じた支援をしており、コロナ禍の今も感染状況に応じて、行きつけ美容院に週刊誌好きな利用者向けに古い店置き週刊誌持参で訪問散髪に来て頂いたり、友人や孫・親戚等への手紙送付の支援をしたり、自宅の庭の柿採りに行ったり、葬儀参列や墓参り等々、様々な方々から協力も頂き感染対策を徹底したうえで、本人の願いの具現化に取り組んでいる。今年度は誕生日に合わせ遠方から来られた方に玄関前で面会して頂いた事例もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係性が悪くなった利用者が出てきた場合はさりげなく食事の席替え等をしたりに間に入り仲を取り持つようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなられた時には自宅に参らせてもらっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	したい事やできる事を日頃の関わりの中で感じ取り本人本位のケアに努められるよう積極的に声掛けをして気持ちを汲み取っている。	全利用者に介護支援や症状管理、家族窓口等の担当職員を配しているが、日頃は全員が全利用者に関わり、利用者もまたしたい事や嫌な事を気軽に口にする方が多く、ユニット会議等にて情報共有を図り、また把握困難な方には普段の関わりで得てきた表情や仕草から気持ちを察し、本人本位のケアとなるよう努めている。畑仕事が好きな方には種や苗を用意し、折り紙好きな方には元保育士職員が折り方を教え、塗り絵好きな方には下絵を差し上げるなど、活きた暮らしの日々となるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族、また居宅のケアマネジャー、サービス事業所等から情報収集し、出来る限り経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ひとりひとりの生活リズムを大切にし、ご本人のしたい事やできる事を本人のペースで行ってもらっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のユニット会議において職員全員で話し合い統一したケアができるよう取り組んでいる。	計画は「その人らしさ」を重視し、担当職員またはケアマネが毎月作成のモニタリング結果と本人・家族の意向を基に、健康維持や本人がしたい事の実現に向けた支援を具現化し、その表記も本人・家族はもとより職員誰もが具体的に何をすればよいかを端的に示す表現にして、ケアマネと計画作成担当者が担当ユニット分を作成。更新期間も一律にせず半年から1年の間にしている。今年度も草むしり好きな方が安全にできるよう段ボールと椅子を準備し、うまく行えているかの評価までを計画化した事例があるなど、利用者の穏やかな暮らしぶりが垣間見られる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録や三則表は電子化され今までより情報が得やすくなったが、まだ使いこなしが難しい状況である。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍であっても訪問理美容や受診同行等、本人の要望により兄弟の家に出かけることもあり柔軟な対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナのためすべて中止している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望のかかりつけ医の受診の際にスムーズに診察が行えるよう最近の体調やバイタルの報告を行ったり、看護職員のアドバイスを聞きながら状態に応じた医療機関の受診を依頼し適切な医療を受けられるよう支援している。	受診は、ホーム提携病院や医院のほか、入居前からの利用者個別の医療機関からの訪問診療もあり、通院や内科以外の外来受診は基本家族付き添いだいが、精神科的症状や家族の都合など必要に応じて職員が連れ添い近況を直接伝え、また救急搬送にはホームに戻るまでを付き添っている。看護師職員もおり、昨年度より生活記録や三則表をIT化させ、受診の際には映像やデータをグラフ化して役立てるなど、さらなる適切医療支援につなげている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師との専用のノートを作成し質問や依頼を記載して指示を仰ぎ、緊急時にはメールや電話でやり取りしている。今年度は夜勤業務にも就いてもらった。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時した際は情提供書で情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化傾向がみられたら、状態に適したベッドや福祉用具の依頼を行い、生活が少しでも安楽になるよう支援している。またご家族の要望をお聞きした上でかかりつけ医とも相談し状態の把握と、受け入れ先の病院や施設の紹介も合わせて行っている。	毎月のモニタリングや食事摂取量の減少など、日常生活で重度化兆候が見られれば、家族に改めて診察をお願いし、診断結果に応じて歩行器や車椅子、診療やケアに適する3モーターベッドに変更等々、ホームでできる支援を伝え、提携病院、特養施設への移行サポートもするなど、本人・家族の意向に寄り添う対応に取り組んでおり、今年度は1件の看取りがある。また過去、居室を玄関横の事務室に変更して最後を見送った事例もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部の勉強会には参加していないが、看護師にその都度相談しながら実践力を身につけるよう努めている。		
35	(13)	○緊急時等の対応 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態に対応する体制が整備されている	症例別の対応マニュアルの整備と「ヒヤリ・ハット報告書」をユニット会議で検討することで再発防止に努めている。	窒息や転倒予防など症例別の対応マニュアルを備え、昨年度より「ヒヤリハット」や「安全レポート」をタブレット入力管理に変更し、会議等でデータを基にした検討・協議し、事故予防や再発防止につなげている。通年実施の消防署員の救急救命講習や近隣同法人事業所と合同で看護師職員による実践研修の中止が続いているため、来年度は緊急事態(救急搬送・感染症対応・火事等)の対応手順を見直し、改めて年間計画を立て実施していく方針としている。	方針通り、緊急事態の対応手順を当ホームに即した観点から見直され、改めて年間計画の策定とその実行により、さらなる実践力を身に付けられることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○バックアップ機関の充実 協力医療機関や介護老人福祉施設等のバックアップ機関との間で、支援体制が確保されている	提携病院や入居前のかかりつけ病院にも訪問診療に来ていただいている。他に気になることがあれば些細な事でも相談し対応している。	協力医療機関は提携病院と医院のほか、利用者個別の入居前からかかりつけ病院の訪問診療があり、重度・終末利用者の受け入れ実績のある近郊の福祉施設とは、コロナ禍でここ数年は未開催だが研修・勉強会等に参加する交流もある。	
37	(15)	○夜間及び深夜における勤務体制 夜間及び深夜における勤務体制が、緊急時に対応したもとなっている	夜勤者両ユニット1名ずつ計2名の夜間体制。緊急時には提携病院に連絡や緊急通報とともに、家族、管理者、代表者に連絡する手順で、搬送に同伴した職員を代表者か近郊居住職員が迎えに行く体制である。	夜勤者両ユニット1名ずつ計2名の夜間体制で、申し送り時に日中の利用者状況を引き継ぎ、緊急時は24時間対応の提携病院や救急通報とともに、家族、管理者、元自治体非常勤職員、代表者に連絡する手順で適宜に適切対応を取る体制となっている。夜間業務もIT化で効率化を図り、夜勤専門職員のほか、今年度は職員の健康状態や生活環境に即した勤務シフトや業務時間調整にも着手している。	
38	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	行政広報のハザードマップ、災害マニュアル、緊急連絡網を整備している。	自治体広報のハザードマップ、災害マニュアル、緊急連絡網を備え、通年、ホーム独自で年2回防災業者の協力で毎日日中・夜間・火元を変え、天候が良ければ利用者も戸外退避し、通報操作確認や消火訓練を実施しているが、感染防止対策のため防災設備の動作点検のみを余儀なくされている。	
39	(17)	○災害対策 災害時の利用者の安全確保のための体制が整備されている	ライフラインや関係機関等の連絡先リストとともに、パン等の非常食、保存水等の備蓄品の3日分相当を(消費期限を含む)リスト化管理し、介護用品、ガスコンロ、サランラップ、マスク、懐中電灯の防災品も整備している。	ライフライン等の連絡先リストとともに、パン等の非常食や保存水等の備蓄品は職員を含めた3日分相当を消費期限を含むリスト化管理をし、持ち出しやすいよう玄関横ホールに保管している介護用品、ガスコンロ、サランラップ、マスク、懐中電灯等の防災品や日常出用品のうち、今年度は防護服やフェースマスク、キャップを新調しており、また被災後の事業復旧継続計画(BCP)策定にも着手している。	コロナ禍感染状況を鑑みつつ、できる範囲で災害時におけるより一層の利用者、職員の安全確保に向けての検討や研修・訓練を実施し、事業復旧継続計画(BCP)を策定されることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
40	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	担当職員の情報を基にユニット会議で対応を検討し症状の理解と個性を尊重したケアに取り組んでいる。洗濯物たたみ等お手伝い後には常に労いの声掛けをしている。排泄の声掛けは大きな声でしないよう配慮している。	利用者も職員も地元の方が多く、当地の慣習や生活習慣に合った言葉かけと接し方で対応しており、また共同生活の日常で、洗濯物たたみは名前を上にするこだわりや、起床後はまず牛乳を飲んで新聞を読み、その後折り鶴に着手のルーティンを持っている方もおり、途中で分からなくなったり不十分な時はそばで励ましたり、気付かれぬようあとでやり直すなど、「その人らしさ」を護れるよう症状の理解と、その個性を尊重したケアに取り組んでいる。	
41		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望、要望を伝える方にはその都度対応している。また伝えられない方には行動やしぐさで本人の思いをくみ取るように努めている。		
42		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に沿ったケアができるように日々話し合いその都度対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	持っている洋服を把握しコーディネート等のアドバイスをしている。不要になった洋服を大量に頂き自分で選んでもらった。しかしまだ衣服に食事での汚れがついたまま、髪が乱れている事がある。		
44	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立・調理専門の職員が主になりホーム菜園の野菜が提供できるよう工夫している。また食で季節が感じられるよう梅干しや干し柿、かぶら寿司等を職員とともに手作りしている。普通食が摂れなくなった方には個々の状態に応じた食事形態で提供している。また食事の写真を残すことで献立の把握に務めている。盛り付け時彩り、食べやすさを工夫している。	献立・調理は専門職員が美味しさファーストで担い、梅干しや干し柿、かぶら寿司等の郷土料理には利用者も調理に参加し、食材はスーパーで購入だが、自家菜園の収穫物や家族のお裾分けで旬物も食卓に並ぶ。外出がままならぬ中、今年度はさらに行事食を充実させ、中庭でのバーベキューをはじめ、手作り幕ノ内弁当や寿司定食、全職員が手作りで一品ずつ持ちよるおせち料理は、個別にお重に詰め大喜びされ、誕生日にはたこ焼き、オムライス、刺身、蕎麦等々、様々なリクエストにもお応えしている。	
45		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の記録や栄養バランスを配慮しながら献立を立てており、残したがちになった際には原因を探り出来る限り食事で栄養が摂れるよう努力している。お茶、コーヒー、牛乳等要望に応じて提供している。		
46		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアが必要な方には毎食後介助している		
47	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックをすることでトイレで排泄する習慣や下剤服薬等の体調管理、またユニット会議等で適切なパンツやパットの検討にも役立っている。	排泄管理も、タブレットに時間、尿・便、性状、パット・オムツ交換等を入力し、症状によっては映像も残し、適切なパット・紙パンツ、誘導タイミングや仕方を検討して実践している。正常な習慣作りに向け、野菜、乳酸菌類の他に積極的に水分摂取をしてもらえるようコーヒー、カルピス、ココア、紅茶、牛乳等に味を変える工夫もするなど、服薬にはあまり頼らず、本来の能力を引き出す支援に取り組んでいる。	
48		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の状態に応じて食事内容や水分摂取量に注意しているが、それでも困難な時は主治医に内服の調整を依頼しスムーズな排便ができるようにしている。		
49	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴嫌いの方にも週2回以上入浴できるようタイミングや声かけの仕方を工夫している。また湯加減や一番風呂、入浴日以外の入浴等の要望にも応じている。男性スタッフが苦手な方には女性スタッフが対応できるよう配慮している。	入浴は、日曜を除く午前中に、週2回以上を目安にご利用頂いており、こだわりの入浴剤や湯加減調整、タオルや洗髪剤、石鹸等は全利用者分を個別に配備し、一番風呂など本人が入浴したいタイミングにも応じていることもあり、嫌がる方は少なく、時に仲良しの方が入浴されているところに入りに来られ、同意のもと2人一緒にそのまま入って頂くこともある。また、一年を通しすべてシャワー浴の方もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠パターンをつかみ日常生活に支障が出ないようゆっくり休んでいただいております。合わせて日中でも休んでもらったりしている。		
51		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局と協力して飲みやすい形状にしたり、服用する際も上手く飲めるよう水に溶きスプーンで飲んでもらう等工夫している。		
52		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑仕事や食器洗い、食事の下準備や掃除など本人の得意とする作業を行ってもらっている。また折り紙や貼り絵、塗り絵など要望に応じて提供している。また献立を考える際に食べたいものの要望を聞くこともある。		
53	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍であっても自宅の庭の柿やゆずをとりに行ったり、個別でお花見やもみじ狩り、季節の花が咲いている頃に出かけている。また中庭にはいつでも出入りできており、時にはスタッフと共に散歩や日向ぼっこを楽しんでいる。	通年の福祉ワゴン車をチャーターして皆で外食を兼ねた花見や紅葉狩り等に繰り出す企画こそ断念しているが、感染者減少時に人と会わな場所や時間帯に、個別にマスク着用で散歩や気晴らしドライブに出向いたり、眼鏡が壊れたため一緒に100円ショップで眼鏡やノートを購入するなど、生活上の食材や日用品購入外出は変わらず、誕生日に食べたいものや行きたい所に行く企画も食事無しで続けている。	
54		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望や力に応じてお金を自由に所持し使用している。		
55		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙は自由にしており気分に応じて一緒にポストと一緒に投函しに行くこともある		
56	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度・湿度管理、空気清浄機や窓開け換気も行い感染対策している。季節を感じてもらえるよう雛人形や五月人形、クリスマスツリー等の飾り付けを利用者の方々とともにやっている。また利用者様自ら庭に咲く花を摘み玄関やホールを華やかに飾ってくれている。	リビングから宝達山が一望でき、採光良く、除湿・加湿・温度管理に、窓開け換気も全開や少し開け等ほぼ1日中で、消毒清掃も徹底した感染対策を講じている。装飾は季節ごとに利用者を作り、玄関広間とユニット出入口には本格的な生花による飾り付けもある。廃棄するきれいな洋服を大量に入手して選んでもらうなどホーム内行事を増やし、またその食事も充実させて、外出しない楽しさにも取り組んでいる。玄関軒下には毎年ツバメが巣作りに来ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自席以外にソファ席やホールの共有スペースを自由に思い思いに過ごされている。		
58	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全室洋室でベッドと夏冬の羽毛布団を準備している。テレビや整理ダンス、使い慣れた椅子等を持ってきてもらう事で居心地よい空間作りができるようにしている。またホームで撮った家族写真や行事写真、自分で作られた作品等を飾り暖かみのある居室作りができるよう配慮している。	居室はベッドが備え付けの全室洋室で、夏冬の羽毛布団はシーズン毎に交換している。小型テレビや整理ダンス、ハンガーラック等々、馴染みや使い慣れた物を持ち込まれ、入居してからの作品を並べる方、居室前のモップで随時床を磨く方、食事以外ほとんど居室でテレビを見てお過ごしの方、靴を履いたまま横になって寝てしまうため、ベッド柵にクッションを付け安全に横になれるようにした方など、それぞれ自由に過ごされるために、運動機能の推移に応じ家族と相談して配置換えもし、食事で全員がリビングにいる際には窓開け換気をするなど、快適環境維持を支援している。	
59		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前には表札を作り、またトイレや浴室の案内板は大きく分かりやすいように表示している。		